

グローバルサイエンスキャンパス
平成30年度全国受講生研究発表会

審査の方法について

平成 30年 9月

科学技術振興機構 理数学習推進部

グローバルサイエンスキャンパスの事業概要および 平成30年度全国受講生研究発表会について

1. 事業趣旨

グローバルサイエンスキャンパスは、国際的に活躍する次世代の傑出した科学技術人材を育成するため、大学を中心として地域で卓越した意欲・能力を有する生徒の幅広い発掘と選抜者の年間を通じた高度で実践的な育成を行い、将来有為な国際的科学技術人材として必要な能力を獲得させ、更に伸ばすことを目的とする。

2. 採択機関

平成27年度：宇都宮大学、埼玉大学、福井大学、大阪大学、広島大学

平成28年度：金沢大学、名古屋大学

平成29年度：静岡大学、神戸大学

平成30年度：東北大学、東京農工大学、慶應義塾大学、愛媛大学、九州大学、琉球大学

3. 事業の企画実施期間、JSTからの支出費用

事業の企画実施期間は4年間を限度とし、1機関あたり年間3000～4000万円程度(プランS: 6500万円上限 /プランA: 2500万円～3500万円)を支出する。

4. グローバルサイエンスキャンパス審査委員会委員

委員長 坂口謙吾 東京理科大学名誉教授
副委員長 鳩貝太郎 首都大学東京客員教授
瓜谷輝之 株式会社日本HP経営企画本部
ガバメント・パブリックアフェアーズ部部長
大倉典子 芝浦工業大学工学部 情報工学科 教授
大路樹生 名古屋大学 博物館 館長 教授
隅田学 愛媛大学教育学部教授
西嶋美保子 アドビシステムズ株式会社
政策渉外担当シニアマネージャー
西本昌司 名古屋市科学館主任学芸員
野村和弘 愛媛県立宇和島東高等学校校長
福田公子 首都大学東京 理工学研究科 生命科学専攻准教授

※上記10名は、グローバルサイエンスキャンパス推進委員会委員である。

(平成30年8月22日時点)

5. 平成30年度全国受講生研究発表会

日時:平成30年10月7日(日)～8日(月、祝)

場所:日本科学未来館(7階会場)

〒135-0064 東京都江東区青海2丁目3-6

6. 審査員

各実施機関より審査員3名の選出を依頼し、グローバルサイエンスキャンパス審査委員会と協働してポスター発表の審査を行う。ただし、審査員と利害関係にある機関(または受講生)の審査は行わないものとする。

7. 文部科学大臣賞、科学技術振興機構理事長賞、審査委員長特別賞および優秀賞について
平成30年度の全国受講生研究発表会においては、優れた成績を収めた受講生に対し、文部科学大臣賞、科学技術振興機構理事長賞、審査委員長特別賞および優秀賞を授与することとする。(なお、いずれの賞も共同研究者がいる場合は、共同研究者にも授与される。)

・文部科学大臣賞とは

文部科学大臣賞は、グローバルサイエンスキャンパス全国受講生研究発表会において、研究内容、口頭発表に鑑み、最も優れた成績を収めた受講生(トップ生)に授与される。(全1件)

・科学技術振興機構理事長賞とは

科学技術振興機構理事長賞は、グローバルサイエンスキャンパス全国受講生研究発表会において、研究内容が科学技術の発展に寄与するものであるとともに、研究への取組やポスター発表・口頭発表におけるプレゼンテーションに工夫や努力が認められることの観点から、優れた成績を収めた受講生に授与される。(全1件)

・審査委員長特別賞とは

審査委員長特別賞は、グローバルサイエンスキャンパスの事業趣旨に鑑み、審査委員長の判断に基づき、優れた研究成果・成績を収めた受講生に授与される。(1~2件程度)

・優秀賞とは

優秀賞は、グローバルサイエンスキャンパス全国受講生研究発表会において、研究内容、プレゼンテーションに鑑み、優れた成績を収めた受講生に授与される。(6件程度)

平成30年度全国受講生発表会 ポスター発表および口頭発表の概要

1. ポスター発表について

- ・日時:平成30年10月7日(日) 午後
- ・ポスターの発表件数は、平成27、28、29年度採択機関においては1機関当たり3件とする。但し、平成30年度採択機関においては1～3件の発表とする。
- ・ポスター発表時間は10分間、質疑応答は5分間、評価表記入/移動は7分間程度とする。
- ・ポスターは英語で作成。ポスターのサイズは図表込みでA0(ゼロ)判全1枚縦型とする。
- ・ポスター発表の発表および質疑応答に用いる言語は日本語または英語(任意)とする。

2. ポスター発表に関して、各機関からJSTに事前提出する資料

各機関はポスター発表において発表を行う予定の各研究課題に関し、下記の資料を事前にJST宛てに提出するものとする。

(JST宛てに提出する資料)

各研究課題に関して、研究成果の要約(発表要旨)。この要約は、日本語版、英語版の両方を作成すること。1課題あたり A4判で日本語版1枚、英語版1枚とする(様式1-1および様式1-2参照)。この資料の内容はポスター発表において発表を行う予定のものと実質的に同一内容とすること。この資料は、日本語版、英語版とも、そのままJSTのホームページに掲載される予定。掲載は、平成30年度全国受講生研究発表会が終了した後とする。

3. 優秀賞の審査方法について

優秀賞の審査は、ポスター発表において、以下の方法により行う。

1課題(1ポスター)について、原則、5名の審査員が独立に研究内容および発表の内容について審査し、各審査員は評価表(参考1)の評価項目欄に要素点を記入する。要素点は以下に示す5段階で行う。

(要素点)

5:優れて達成している

4:やや優れて達成している

3:概ね達成している

2:やや達成が不十分

1. 全く達成できていない

各評価項目欄に記入された要素点の合計をもって、当該ポスターの得点とする。5名の審査員が独立に付与した得点の平均点をもって当該ポスターの審査基準点とする。

4. 口頭発表者の決定

審査委員会は、原則として、ポスター発表の審査基準点が3.0以上を満たす得点の高いものについて合議の上、10件程度の優れた成績を収めた受講生(口頭発表者)を決定する。

5. 口頭発表について

- ・日時:平成30年10月8日(月、祝) 午前
- ・口頭発表における発表時間は10分間、質疑応答は5分間程度とする。発表および質疑応答の言語は日本語あるいは英語(任意)とする。
- ・口頭発表は壇上にてパワーポイント、マイクを使って行う。このため、ポスター発表において発表を行う受講生は全員、優秀賞に選ばれた場合を想定して事前にパワーポイント資料(英語)および口頭発表原稿(日本語あるいは英語)を準備しておくこと。

6. 文部科学大臣賞、科学技術振興機構理事長賞および審査委員長特別賞の選定について

口頭発表において発表を行った研究課題から、賞の趣旨に鑑み、文部科学大臣賞、科学技術振興機構理事長賞および審査委員長特別賞を選定する。

7. 文部科学大臣賞、科学技術振興機構理事長賞および審査委員長特別賞の審査方法

優秀賞に選定された研究課題について、研究内容および口頭発表における発表内容に基づき、グローバルサイエンスキャンパス審査委員会が審査を行う。

審査委員会は、口頭発表の終了後、ポスター発表での内容を含め総合的に判断し、文部科学大臣賞、科学技術振興機構理事長賞を選考・選定する。

8. 文部科学大臣賞、科学技術振興機構理事長賞および審査委員長特別賞審査の具体的方法

各審査委員は、口頭発表終了後、文部科学大臣賞、科学技術振興機構理事長賞にふさわしい研究課題について投票を行う。投票は、委員ごとに、文部科学大臣賞 1票、科学技術振興機構理事長賞1票とする。各課題が得た得票を集計した後、委員会は合議の上、賞の趣旨に鑑み文部科学大臣賞 1件、科学技術振興機構理事長賞1件を選定する。

審査委員長特別賞は、賞の趣旨に鑑み、審査委員長が選定する。選定に当たり審査委員長は審査委員の意見をきくことができる。

審査委員長は審査結果をJSTに報告する。

様式1-1（日本語で作成すること。A4判で図表込み全1枚。このままJSTのホームページに掲載されます。）

グローバルサイエンスキャンパスの
実施機関(大学名、プログラム名称)

研究のタイトル

研究者、所属
(高校名、学年、氏名)

1. 研究の目的と意義
2. 研究の手法
3. 結果と考察(図表等)
4. 謝辞
5. 参考文献

様式1-2(英語で作成すること。A4判で図表込み全1枚。このままJSTのホームページに掲載されます。)

Implementing body of Global
Science Campus Program
(University, Program Title)

Subject

Researchers, affiliations

1. Purpose of the study

2. Method

3. Result and discussion (Pictures
and tables)

4. Acknowledgement

5. References

(参考1) 評価表

グローバルサイエンスキャンパス平成30年度全国受講生研究発表会

(所属機関) 審査員:

発表 番号	
----------	--

審査のカテゴリー		観点	評価	【メモ記入欄】 審査時のメモ(発表者にはフィードバックされません)
目的・意義	研究の目的	・研究テーマの目的が明快であり、かつ自分なりの独創的な視点が含まれている。	5	
	研究の背景・意義	・研究テーマの学問的・社会的意義や位置づけをよく理解できている。	5	
方法・取り組み	方法	・適切な実験、観察、調査等が計画されており、方法に創意工夫が認められる。 ・(チーム研究の場合)チームメンバーの強み・個性が活かされ、分担あるいはシナジーによるプラスの効果が発揮できている。	5	
	取り組み	・課題や困難な点に、粘り強く、柔軟かつ自立的に取り組んでいる。	5	
結果と考察・成果	考察	・得られたデータや結果に基づき、論理的、多角的かつ深い考察ができています。	5	
	成果	・新たな発見・発明や独自の研究方法の開発など、学問分野やテクノロジーあるいは社会への貢献が認められる。	5	
発表	発表	・研究テーマや成果等のポイントがよく整理され、わかりやすい発表(ポスター)ができた。質問に対しても適切な対応ができた。	5	
	今後の発展性	・挑戦的な研究テーマに取り組んでいる。 ・研究の内容が独創的あるいはきわめて高い水準に達している。 ・国際的に活躍する次世代の傑出した科学技術人材として期待される。	5	
【5段階評価の基準(絶対評価)】			40	
5:優れて達成している 4:やや優れて達成している 3:概ね達成している 2:やや達成が不十分 1:全く達成できていない				

【審査コメント記入欄】発表者にフィードバックされます。